

センターの一年を振り返って

センター専任教員

吉原 美知子

平成 21 年をあらわす漢字に「新」が選ばれました。政権交代による新政権の発足、裁判員制度など新しい制度のスタート、さらには新型インフルエンザなどのありがたくない面も含めて一年をあらわす文字であるといえます。この一年はセンターにとってもまさに「新」の年でした。

平成 21 年度の補正予算によって過去数年にわたって希望していた装置が更新され、また一部は新規に導入されることとなりました。補正予算が認められると同時に機種選定のための委員会が設置され、希望に満ちた中にもあわただしさの加わった毎日となりました。新政権への交代時には、平成 21 年度補正予算の一部に執行留保の可能性が生じ、どうなるかと心配しましたが、幸いなことにセンターに導入される機器は無事に選定及び発注を行うことができました。

センターに今年度導入される機器は前年度の補正予算ですでに決定していた透過型電子顕微鏡 (FE-TEM) および走査型電子顕微鏡 (FE-SEM) に加え、X 線マイクロアナライザー (FE-EPMA)、X 線光電子分光装置 (XPS)、核磁気共鳴装置 (NMR、600MHz)、液体クロマトグラフタンデム質量分析装置 (LC-MS/MS)、レーザーラマン分光装置 (Raman)、高周波誘導結合プラズマ発光分析装置 (ICP-AES)、高周波誘導結合プラズマ質量分析装置 (ICP-MS) およびフーリエ変換赤外分光光度計 (FT-IR) です。更新された装置は従来のもものよりも格段に性能がアップし、また新規導入装置を加えたことでこれまで行えなかった分析が可能になります。これら装置の詳細や使用方法等については改めて皆様にお知らせする予定ですが、センターの機能を一層強化できるものと期待しております。これらの機器を十分に活用するべく機器の特性に習熟し、センターとして皆様の要望に応えられるよう努めていきたいと思っております。

多数の装置が導入されることになり、センターでは設置各部屋の改修と電源容量の増設を行いました。新型装置はパワフルである半面、大きな電気容量を必要とします。また、最近の機器はパソコンによる制御や解析が必須であり、これに合わせてコンセント等の増設も必要となりました。機器の搬入に加え、改修工事や電気工事に伴う停電などにより既存設備の停止が避けられず、利用者の方にはご不便をおかけしたことを申し訳なく思っております。機器の更新や新規導入がある一方、核磁気共鳴装置 (EX-270) および有機反応解析システムはその役目を終えました。長年ご利用いただき、ありがとうございました。

さらにセンターでは玄関ドアの自動化改修工事を行いました。センター利用者が測定試料を持参する際の入退館がスムーズになると同時に、機器搬入などの際にも役立つものと思っております。オートロックとなりますので、時間外に入館が必要な場合、教職員は登録済みのカードを、学生は学籍番号を登録した学生証を持参のうえご利用ください。

センターは利用者に有効に活用していただける施設を目指してまいりますので、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。